

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500194		
法人名	株式会社 ウェル		
事業所名	グループホーム押水		
所在地	石川県羽咋郡宝達志水町今浜えびすが丘59		
自己評価作成日	令和8年1月19日	評価結果市町村受理日	令和8年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人バリアフリー総合研究所		
所在地	石川県白山市みずほ1丁目1番地3		
訪問調査日	令和8年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自由に・ゆったり・ありのままに」生活を送って頂きます。</li> <li>・一人ひとりの「その人らしさ」を尊重します。</li> <li>・「第二の我が家(セカンドベスト)」を目指します。</li> </ul> <p>という理念を活かし、その人らしい生活を送ってもらえるように頑張ります。 利用者さんと 行事を行い楽しいひと時を過ごして頂きます。買い物に行き、好きなものを選んでもらいます。 ドライブ 中庭での食事 文化祭の展示出品 など 利用者さんと 共に 楽しんでいきます 散歩に行き、近所の保育園の園児とお話をして、お互い喜んでいきます。 誕生日に、ドライブにいき、外食をし、楽しんでいきます。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ホームが第二の我が家(要約)」にホームが目指す指針を示し、利用者個々の事情を汲み、症状や能力に沿いながら生きる意欲を引き出せるよう取り組んでいる。</li> <li>・依然続くコロナ禍のため皆で繰り出す外出は避け、少人数で地元名所の砂浜や銀杏並木、コスモス畑等に出かけ、普段も地元施設や行事、気晴らしドライブに出かけ、入浴は本人ペースで土日以外毎日利用される方々もあり、中庭の枝垂れ桜を興じてのバーベキューや流しそうめん等のイベントも豊富で、誕生日ケーキは和菓子に変更もお応えしている。今年度は、ただただ気持ちよく快晴の日に中庭で、コーヒーや紅茶等にチョコレートや飴やお菓子等を揃えて屋外喫茶店を開店して過ごすなど、不自由さを感じさせない楽しい日が多くなるよう取り組んでいる。</li> <li>・職員には業務効率化と負担軽減を目的に、タブレット使用による情報共有や適正管理、事情に応じた勤務体制や時間調整、有給休暇の活用奨励や代表者抜きのグループアプリに、初任給アップや資格取得に向けた支援等により、働きやすい環境作りとともに、なにより利用者にとって、第二の家族の一員となれるよう皆で取り組んでいる。</li> </ul>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お経をあげたい。との事で、毎日一回お経をあげてもらおう。新入所の利用者さん、今まで一人暮らしをしていて、毎日家へ帰りたい。と訴えあり。家族と相談し、正月に家で仏壇参りをして、外食し帰ホーム。とても喜ぶ。あまり話をしない利用者さん、息子のことが気になり不穏になったので、ドライブする。しばらく落ち着きがないが、途中コーヒーを飲んだり、まんじゅうを食べたりして落ち着かれる。こんなおいしいのまで頂いて恐縮です。と言われる。	「自由に・ゆったり・ありのままの生活、その人らしさの尊重、ここが第二の我が家(要約)」を理念とし、職員が家族ながらに共同生活の暮らしが充実するよう、やりがいのお経を毎日あげて頂いたり、帰宅願望には仏壇参りと外食をして落ち着いて頂いたり、ご子息のことを執着される時は気晴らしに一緒に外出したり、口数の少ない方にはホーム行事に少しずつ馴染んで頂きながら心も開いて頂けたなど、日々の関わりの中で、理念を念頭に全利用者個々の症状や気持ちに寄り添う支援に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者さんの、友達がシクラメンの花を持ってきてくれました。毎年いただくのですが、今年は知っている利用者さんがいたので、いつもより会話が弾みました。	依然、コロナ以外の感染も懸念されるため以前にはいかないまでも、今年も地元のボランティア団体からシクラメン鉢の寄贈を頂き、今年は利用者知り合いもいて話の花も咲き、恒例の地区老人会の日舞鑑賞にも招かれ乗降や手引きをもらい、散歩で近隣保育園児と話したり、地域の方からタオル寄付を頂いたり、隣の畑の地主には栗取りをさせてもらったり除雪で助けて頂いたり、ホーム長も玄関前で剪定をされると散歩の方に褒められるなど、日常生活の中で地域の方々と身近な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中、昔近所に住んでいた、隣人に会う。最初誰か分からなかったが、会話をしているうちに、近所の人と分かり、話が弾む。畑の人は、いつもホームの事を気にしてくれています。雪が降ったら、除雪をしてくれたり、干し柿をもらったりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今浜の区長から、いろいろな行事をするので、参加してください。と言われました。民謡会に参加しました。	会議は隔月に、家族代表、町社協会長の新区長、自治体・包括職員の構成で、近隣同法人事業所と時間差で開催し、入居状況や活動内容、ヒヤリハットや事故内容等を報告し、参加者からの意見や感想を頂き運営に活かしている。今年度は新区長から利用者も参加可能な町の行事参加を勧められ、老人会の日舞鑑賞では前の席をご準備頂き、車の誘導や会場までの付き添いもして頂いている。議事録は全参加者に送付し、玄関にも常置して公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事あるごとに連絡している。受診時の付き添いにおいて不平等感軽減のため有料にできないかと町に相談した。	自治体担当課には運営推進会議にてホームの実情を伝えており、毎月の入退去報告や介護認定更新、申請代行等々、制度・法令順守に則った運営に努めており、またコロナ禍や能登地震の際にも様々な支援を頂いているとともに、何か疑問や確認したいことが発生すれば事ある毎に問い合わせをして、良好な協力関係維持につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	トイレに何度も行く利用者さん。「さっき行ったよ。」と言う言葉が正しいか話し合う。「さっき行ったよ。」と言わないようにするにはどうすれば良いか。話し合う。	頻尿傾向の方に「さっきも行ってたよ」のような抑制的な声かけに、記憶障害や睡眠不足、ストレスなどその原因を探し、感情的にならず落ち着いてゆっくりとした話しかけを心がけるなど、職員会議で日常に起きた正解のない対策を検討し、本人の思いを優先に拘束しないケアに取り組んでいる。ここ数年無断外出が続き施設事故防止のための玄関施錠は解除し、今は夜間のみ施錠に戻している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	前項同様にその都度勉強会を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前例がないこともあり、個々で理解できるスタッフもいるが、すべてのスタッフの理解は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。入院し退院の見込みがない利用者さんの家族と病院とホームで話し合い、病院が最後まで見てくれる、とのことで退所された。家族は、今後安心して過ごせます。と喜んでいた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんが、ホームに来る前から、マッサージに行っていたので、毎週水曜日はマッサージにしている。新利用者さんが、みかんが好きとの事で、一日一個みかんを食べさせてあげてください。と言われ、毎日食べています。体重増加を気にしている家族さんが毎週体重を測って下さい。との要望あり。水曜日に測定している。	家族には、金銭管理報告や衣替え依頼などの電話連絡の際や訪問面会時に利用者の体調や近況を伝え、毎月の請求書には法人代表者や担当職員が撮ったスナップ写真も同封し、退所時には写真集にパネルも差し上げた事もある。地元利用者が多いため来訪者も家族に限らず多く、今はマスク着用で応接室での面会をお願いしている。利用者や墓参りに出かけたり、みかんのほか収穫物や装飾品の差し入れを頂くことも多く、また毎週水曜の体重測定など本人を思いやるお気持ちなど、家族からの要望にもなるべくお応えし、利用者や家族との交流を大事にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族・職員からの意見を聞き、話し合いをし、実行している。 雪の多い日に、スタッフが除雪をするが、中々仕事の中に出来ない。と、会社に相談する。	毎月のユニット会議には法人代表者、近隣法人事業所の管理者、元自治体職員の非常勤職員が参加し、代表者がいることで職員からの提案も内容如何では即決で反映される仕組みになっている。今年度も連続する大雪のため除雪の応援を依頼し男性職員の協力を頂いている。ここ数年で、勤務体制や労働時間の調整、業務IT化・ペーパーレス化、有給休暇の活用奨励とともに代表者抜きのグループアプリの開設、初任給アップや資格取得に向けた仕組み作りや完全調理品の導入など、職員の負担軽減や業務効率化を目的に、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの健康状態や生活環境に応じシフトや労働時間の調整等を行い誰もが働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	初任者研修に参加。いろいろと学ぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、見学時、同じ在所の利用者さんとお話をして、ここはいいよ。といわれたり、寒いから、その間だけでも、ここにおらんか。と言われ、少し安心する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一人暮らしをしていて、今まで好きなようにしていたが、団体生活になると、自由がなくなるのではないかと心配の声があったが、部屋を家にいる時と同じ環境にしたり、いつでも散歩にいけるように面会に来たり、いつでも外出できるようにすることで、本人も家族も納得してもらった。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の望む生活を見極め他事業所と連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「あんた、また来てね。あんたおらんと寂しいわ」帰り際に手を握りながら言ってくれます。少しでも心の支えになってくれたら、嬉しいです。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	11(7)の様に本人が好きなものがいつでも提供出来るようにしたい。 いつでも家族と外出外や、泊したり出来る環境づくりや、マッサージに行ける様に支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	毎週マッサージに行ったり、正月にお墓参りに行ったり、入所前、家族でテルメ金沢に行っていたので、外泊しテルメでゆっくりしたり、娘が飲食店を営んでいた、いつも寿司を食べさせてもらった。と寿司を食べにいたりしている。	いつでも家族と外出や外泊できる環境になっており、家族と墓参りや30年以上も行きつけの美容院に行ったり、よく行っていた千里浜へは気晴らしに出向いたり、地区老人会の日舞鑑賞では一緒に仕事をしていた方と再会したり、日頃も友人・知人の面会訪問も多い。今年度は、入居前から店の送迎で利用していたマッサージ店に行っている方、家族と恒例のサウナ施設で宿泊をしている方、それぞれ入居しても続けられ、飲食店を営んでいたご息女と寿司を食べに行かれたりしているなど、ホームとして馴染みの人や場所との支援継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昔 教師をしていた利用者さん同士が同じユニットにいます。中の良いときは、一緒にテレビをみたり、体操をしたり、するのですが、毎日一緒だと、うとうしい時もあるみたいで、「構わんどいて。」「そうですか。」と、離れていきます。そーっと観察しています。気持ちが分かります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中であれば退所以降もお見舞いに行ったり、相談や支援に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生け花が好きと、独り言シートでわかり、正月の生け花を生けてもらう。家で毎日仏壇参りをする人に一日一回仏壇参りをしてもらう。その時スタッフにもお参りをし、清めてくれる。若い頃織物工場を営んでいた利用者さん、旦那は遊びが忙しく、工場は私が切り盛りしていたよ。と自慢げに話をします。毎週マッサージに行かれる。	日頃、ホーム長が利用者との会話で気づいたこと気になったことを職員に確認しながら記帳している「独り言シート」や「ホームでの一日シート」をケアに活かすことも多い。自己評価コメント以外にも、のんびりした田舎道がいいと言われる方にはあえて車を田舎回りにしたり、孫のことが気になる時は一緒に外に探しに出たり、夫婦間やお金の話で皆と笑い合ったり、なかなか話さない方にはしりとりゲームで話すきっかけを作ったりと、共同生活の中で利用者個々の思いや気持ちの把握に努め、日々の暮らしが充実するよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「ホームでの一日」で、編み物をしていて。とのことで、家族に編み物セットを持ってきてもらう。中々出来んわ。と言いながら、本当に少ししかせず終わってしまう。だが、ほかの利用者さんが、させて、と言いつつ完成される。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎回、いづこ飯ですか？と聞きに来る利用者さん。居室に張り紙をして、時間を把握してもらう。それでも聞きに来るので、その都度教える。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族さんが、利用者さん本人が血圧が低くなったらどうしよう、と心配されている。毎日バイタルチェックし、変化があれば係りつけのドクターに相談します。と言うと、納得される。体重の変化を気にする家族さんに毎週一回体重測定をし、状態観察する、と計画する。今年はドライブや散歩に良く出かけた。外の空気を吸えて良かったです。	毎月のユニット会議での全利用者のモニタリング結果を基に、ケアマネまたは計画作成担当者が本人やヒヤリングシートに書かれた家族の気持ちも反映させ、基本1年毎に更新作成をし、訪問時や郵送にて承諾を頂き、入院等があれば随時見直し更新をしている。下肢筋力の低下抑制に屋外散歩を目標にして、隣のユニットまでの屋内歩行を繰り返す、今の屋外散歩までつなげたり、家族が血圧低下と足の浮腫を懸念され、担当医の診断に加え毎週の体重測定を計画化し、今は持参された枕に足を乗せて様子を見られているなど、今の状態が少しでも長く続くよう健康維持を主体にした目標設定とケア方針を計画化に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や三則表に記載している。 バイタルは、状態が悪いと、何度も測定する。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や受診同行等、柔軟な対応をしている。家族さんの、思いなど、意見を聞き、その都度対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町からの義援金「商品券」で、下着、点つなぎの本など、本人の必要な物を購入。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	年末状態悪化の利用者さんがいて、すぐかかりつけ医に相談、休みの日だが、往診に来て、採血、注射をしていられる。様子見の支持あり、そのことを家族に連絡、年末年始毎日家族に状態報告し、様子見た。ホームのナースとも、相談し、一度頭のレントゲンを撮った方が良かったか？と話し合う。	受診は、毎月訪問診療のホーム提携医のほか、入居前からの利用者個別の医療機関の訪問診療もあり、通院や外来受診は基本家族付き添いだが、事情によっては職員が連れ添い、精神科には職員も同行し本人の日常を伝える場合もある。看護師職員が普段から全利用者の健康管理に努め、提携薬局からも薬剤効果の助言を頂き、普段も生活記録や三則表のIT管理で、受診時に患部映像やグラフ化データの提示など、医療支援に努めている。今年度は、年末の突然の状態悪化で入居前からの通院先に連絡をし、往診頂き採血に注射及び点滴処置をして頂き、年始まで逐次家族に報告した事例もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ナースに、状態変化があれば、その時相談。スタッフで切れない爪や、便が出にくいときにおなかを診てもらう。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時した際は情報提供書で情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しそうな利用者さんがいたら、家族、担当医と相談し、今後の方針を、話し合う。	契約時に、医療的看護を要さず希望があれば看取りケアを実施するホーム方針を説明しており、毎月のモニタリングや食事が取りづらくなるなど重度化傾向が見られれば早い段階で家族に診察をお願いし、提携の町立病院に入院や特養施設へ移行など今後の選択肢を説明し、このまま入居継続となれば24時間つながる連絡手段やケア方針を話し合いながら進め、悪化しても本人・家族の意向を優先した納得の行く終焉を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒後、表皮剥離し、出血した場合、保護の仕方、病院受診の有無、家族さんに連絡する、などの、流れを、会議で話し合う。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の対応も、救急搬送案件も、会議で話し合う。その都度、流れをスタッフが共有できる様にする。	行方不明も含む症例別の対応マニュアルを備え、今年度は、近隣同法人事業所と合同の看護師職員による緊急時対応研修はできなかったものの、消防署員を招いて実施する救急救命講習は、全職員が参加できるよう2回開催している。日頃も「ひやりハット」や「安全レポート」提出の徹底を図り、内容如何ではユニット会議で協議し、事故予防や再発防止につなげ、万一の場合も看護師職員から指示・指導を受けられる体制となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	提携病院や入居前のかかりつけ病院にも訪問診療に来ていただいている。入・退院時の情報交換を密に行う。特養に申し込みをする時も、相談員と、連絡を密にしている。	協力医療機関には毎月訪問診療の提携町立病院と歯科医院のほか、利用者個別の入居前からかかりつけ医院の訪問診療もあり、また、これまで重度化や終末期利用者の受け入れ実績のある近郊の福祉施設とは、コロナ禍でここ数年は未開催だが研修・勉強会等に参加する交流もある。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急時は、ホーム長に連絡し、応援に来てもらう。救急搬送の時はホーム長が付き添う。	夜勤者両ユニット1名ずつ計2名の夜間体制で、申し送りに万全を期し、緊急時は協力医療機関や利用者個別の主治医に連絡や救急通報とし、容体等を伝える電話の仕方や管理者・代表者・家族への連絡手順をフローチャート化している。体調変化が予想される時は、タブレットから職員誰もが体調確認をすることが可能で、かつ、緊急時はホーム長が駆け付け、搬送時にも付き添う手順となっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は利用者さんが、熱発や、スタッフが入院などをし、体制が整わず、まだ実行出来てません。今年度中に一度避難訓練をする予定です。	自治体ハザードマップ、災害マニュアル、緊急連絡網を備え、通年、ホーム独自で年2回防災業者の協力で、日中と夜間、毎回火元も変え、天候が良ければ利用者も戸外退避し、通報操作確認や消火訓練を実施。能登地震では、近隣同法人事業所の利用者を受け入れており、その時の対応や、相互で避難先となっている近隣保育園までに、道路の亀裂や倒木があった場合の対処が課題となっており、今後自治体に相談する予定としている。	災害対策には限りがないため、備蓄品の見直し購入をはじめ、消防署員立ち会いや近隣住民参加の避難訓練、相互避難先の近隣保育園との具体的な体制協議等を自治体への相談を含め、より強化を図られることを期待したい。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	事務所にハザードマップを用意している。	ライフラインリストとともに、パン等の非常食や保存水の備蓄品を職員分も含めた3日分相当を消費期限を含むリスト化管理をし、介護用品、ガスコンロ、サランラップ、マスク、懐中電灯等の防災品も、持ち出しし易いよう玄関近くの和室に保管している。今年度は、改めて備蓄品の消費期限確認とともにリスト化管理をしており、今後も見直しをして行く方針としている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ぬいぐるみを、子供と思い、一緒に寝ている。日中も、気になり、ベットにいるか、確認している。スタッフも気にして本人に、寝ていたか？元気でいたか？と声かけし、お互いかわいい子供がいる環境づくりをしている。	持参された縫いぐるみを我が子と思っている方には職員も同じようにふるまい、工場を切り盛りしていた方とは当時の苦労話を傾聴したり、編み物が好きな方には家族に裁縫セットを用意してもらって他の利用者とも一緒に楽しまれたり、俳句の先生をされていた方とは著書の詩集と一緒に詠んで共に喜んだり、また自尊心と羞恥心が強いためトイレ誘導がなかなかしづらい方には、ホーム内の散歩をお誘いしてトイレ近くでついでにとお誘いするなど、今の症状や人柄、またこれまでの歩みにも寄り添い、個性を尊重したケアとなるよう取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	天気の良い日は散歩、ドライブなど気晴らしをしています。今年は、去年、ドライブ散歩に出かける機会を増やしたいと、会議で話し合い、多く出かけられました。あまり話をしない利用者さんでも、外に出ると、表情が出て、嬉しかったです。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	仏壇まいり、マッサージ、携帯を利用する利用者さん、点つなぎ、体操、などその人に合った支援をしている。あまり表現のない利用者さんも、スタッフと歌を唄ったりすると、声を出し歌ってくれます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際には外出用の衣類を利用者と選び着用している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	鶏肉が苦手な利用者さん、調味料を変えたり、細かくしたり、している。中々食べてくれません。どうすれば良いか？みかんが好きな利用者さん、一日一個みかんを食べてもらいます。	食事は、チルド・冷凍の完全調理品で、食品の安全性のもと味とともに栄養管理がなされ、刻みやとろみは別途にセットして提供し、苦手総菜も細かく柔らかくなどして少しでも摂って頂けるよう工夫し、また近所や家族からのお裾分けもあり、旬食材が食卓に並ぶ事も多く、家族持参のみかんを毎日食べている方もいる。行事食も豊富で、正月の赤飯をはじめ、寿司好きな方が多いので稲荷ずしやおにぎりを出したり、中庭の枝垂れ桜を興じて寿司定食やバーベキューや流しそうめんをし、ホーム内運動会の日には仕出し弁当で頑張ってもらっている。誕生日のケーキは和菓子に変更のリクエストにもお応えし、今年もクリスマスのカレーパーティーはとても好評だった。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック状態を把握し、少ない人は、水分を飲んでもらう。便が固い人は、寒天を食べてもらう。ヤクルトを飲んでもらう。などその時に合わせる		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできている方については見守りしている。できない方については夕食後に介助している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理状況で排尿・排便のチェックをしている。落ち着かない利用者さんは一度トイレに座ってもらう。便秘の利用者さんにナースが聴診器で腸の運動の確認をしてもらう。状態が低下している利用者さんでも、可能な限りトイレにて排泄してもらう。	排泄はほぼ自立している方が多く、タブレット入力の排泄管理でモニタリングやユニット会議等で適切なパットや紙パンツ、防水シーツ等の介護用品選定や介助の仕方、誘導タイミングを検討して臨んでいる。また日頃便秘対応で野菜、乳酸菌、牛乳寒天、果物缶の糖分補給のほか、体操、腹圧マッサージ、時には看護師職員が聴診器で腸振動の診察などをして、本来の能力を引き出すとともに、薬局薬剤師に成分や処方を確認するなど、便秘・頻尿や失禁等を軽減させ、正常な生活習慣となるよう取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に応じて食事、水分、内服の調整等で便秘にならないように援助している。牛乳寒天OS1飲んでもらう。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴だが希望があれば、その都度入浴してもらう。毎日入浴する利用者さん、毎日声かけし入浴してもらう。	入浴は、土日を除く午前中に週2回以上を目安にご利用頂いており、入居前は毎日入られていた方と感染症予防で清潔保持が必要な方には、平日は毎日入浴して頂いており、嫌がる方には勧める職員や日を変えてご利用頂いている。入浴剤は数種あり、今年は職員からのお裾分けで菖蒲湯の日もあった。湯加減や一番風呂等のご要望にもお応えしており、タオルの他にも自分専用の洗髪剤を持参して使っている方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にテレビを置き、好きな時間テレビを見て過ごしてもらう。携帯を持っている利用者さん、この前雪が降り、自宅の屋根が気になり、隣の家へ確認をしていた。大丈夫との事で、安心してた。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と協力して服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。便のコントロールが中々出来ず、薬剤師さんと、便秘薬の相談をしている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	俳句の先生をしていた利用者さん、家族さんが本人が書いた詩集を持ってきて、一緒に見て楽しむ。口数が少ないが、詩集を見て、喜ぶ。でも、忘れていることもあり、読んで反応ないときもあります。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マッサージに行く人、テルメに行く人、パーマをかける人、その都度対応。帰宅願望の強い人にドライブへ行き、コーヒーを飲んだり、楽しめる。	感染対策で中断していた介護タクシーワゴン車をチャーターして、皆で外食を兼ねて繰り出す企画は、利用者2~3人をお乗せして行く支援で復活しており、今年には花見や紅葉狩りをはじめ、地元名所の千里浜や銀杏並木、コスモス畑に出向き、普段でもホーム車両で地区老人会の日舞鑑賞や気晴らしドライブ等に行っている。また家族とサウナ施設に外泊、ご息女と寿司店、マッサージ店や30年以上行きつけの美容院へはそれぞれの店の送迎で行かれています。また誕生日に個別に食べたいものや行きたい所へ行く企画も復活しており、職員と寿司を食べに行った方もいる。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力に応じてお金を自由に所持し使用している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしている。遠くに住む兄弟の人が、テルしてくれたり、手紙を出したりしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節に合ったレイアウトしている。新入所の利用者さんは、自室がわからず迷うので、ドアに苗字を書いた表札をつける。居室を家に近いように配置したり、中庭で、喫茶店を開いたりしている。	リビングから宝達山が一望でき採光良く、除湿・加湿・温度管理に、看護師職員が主となり消毒清掃や窓開け換気もし、スリッパ消毒棚の配備など、依然、感染対策の徹底を図っている。玄関ホールには、利用者が文化祭向けにパーティごとに作り組み合わせた色花紙ピクチャーや、元利用者から頂いた孫向けに買った雛人形段飾りをはじめ、家族等から頂いた寄贈品を置き、ユニット出入口の生花の飾り付けは四季が楽しめ、また中庭の土間打ちコンクリートはしだれ桜を一層映えさせている。今年度は、特に何か行事と言う事もなく、ただただ気持ちよく快晴の日の中庭で、コーヒー・紅茶・番茶とチョコレート・おかし・飴・クッキー・お菓子等も揃えての屋外喫茶店を開店して楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間で 休憩したり、食卓でかたまってゲームをしたり、疲れたら自室へ入ったり、その都度その人にあった事を行っています。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人使用していたテーブル、ぬいぐるみ、健康器具、などそれぞれの利用者さんが、持ってきています。	居室は全室洋室にベッドが備え付けで、それぞれ馴染みの物を持ち込み居心地良く過ごされている。自宅から持参されたぬいぐるみを我が子のように愛おしむ方もおれば、夏祭りイベントで贈呈した犬を頭の上に置いて就寝される方、隣ユニットに同じ職場だった方がおり往来している方、毎夜ニュース番組を観て1日が終わる方、テレビを見ながら午睡される102歳の方もいる。運動機能に応じて、家族と相談しながら適宜に配置換えをして、安心安全環境を図っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの案内板を大きく分かりやすいように表示している。		